

第1回豊橋市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会
議事録（要旨）

日時：平成27年5月11日（月）午後7時～8時45分

場所：東館4階 政策会議室

(発言者)	(要旨)
大西委員	<ul style="list-style-type: none">・人口は必ず減少する。この問題は、適応策（コンパクトシティ、経済規模が縮小しても豊かな生活を維持）と緩和策（抵抗策、出産の希望を実現させ人口を回復）を並行して行わなければならない。差し迫った問題は適応策、長期的には緩和策を実施しなければならない。・今までも対策は講じているが、うまくいっていない。今までにない対策をしていかなければならない。出生率が回復しない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none">・人口が減ることは悪いことばかりではないが、対応が必要である。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none">・どこの自治体も同じように総合戦略をまとめていくことになる。周辺市町村にも配慮して、適応策、緩和策を考えていく必要がある。・ひとり娘、息子を遠くに就学させることが減ってきている。地域で育ち、就職することはよくわかるが、他の地域を見ない、経験しないで、地域への思いや地域を良くしていこうという発想が出てくるのか疑問である。・地域の歴史をほとんど知らない学生が多い。この地域の良さを振り返り、遠くにいたとしてもこの地域に思いを馳せるようなひとづくりも必要である。・家族とともに住むことの魅力が薄れてきている。実際に子ども数が多い地域をしっかりと分析することが必要である。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none">・日本のことをよく学ばずに外国に行き仕事をすると失敗するのと同じである。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none">・学校法人の理事長としては、この地域の人口減少は経営的にも直撃するため悩ましい。2060年までにはリニア新幹線の影響でこだまなども増え、名古屋の学校に通いやすくなる。

(発言者)	(要 旨)
	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋市内だけでなく、三遠南信といったエリアで産業、定住などを検討すべきである。 ・名古屋は大学、就職による転入が多いが、それ以外は転出が多い。豊橋は田舎のため子育てしやすい環境にあるため、これを伸ばしていくのがよい。子育て支援の人材育成、施設整備、持ち家を持ちやすくする政策などにより流入を増やす手もある。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対数で言えば、大学は今のままでは減少する。子育てしやすいのか、子どもは多少なりとも増加の状況である。
加藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・製造業にしても、サービス業にしても従業員が不足している。外国人の研修制度を活用するなど、苦勞をしている。 ・アルバイトの数が年々減ってきている。これは、アルバイトをする必要がない、お小遣いが潤っているといった生活環境が影響している。 ・名古屋や東京に行った学生は、地元に戻らず、東京や大阪、名古屋で就職することが多い。地元の企業が他地域の大学に対し就職受け入れ活動をしていく必要がある。 ・女性のパートでも、働きたい人は多い。子どもを預けて働ける環境を充実していけば、住みやすいまちになっていく。 ・日本人だけで人口を増やすのか、それとも定住できる外国人を受け入れて人口減少に歯止めをかけるのか。どちらがいいのかわからないが、日本人だけでは先が見えているのではないか。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・担当部局は、児童クラブは足りているとの認識だが。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブは申し込みが遅れると受け入れてもらえない。ただし、地域によって違う。
西島委員代理	<ul style="list-style-type: none"> ・女性にしろ、若手にしろ、雇用するにはコストがかかるため努力が必要である。 ・女性雇用に取り組み始めて8年くらいになる。しかし、産休を経て残っている人は、結果的に1人だけである。育児休暇を繰り返し、

(発言者)	(要 旨)
	<p>仕事のブランクが長くなると、戻ってこられなくなってしまう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国から学生を採用している。地元から多く採用したいが、工業系のため倍率が高いせいか、なかなかできないのが実情である。また、豊橋全体として雇用の受け皿は十分あるのか疑問である。 ・高校生を採用したいと考えているが、なかなかうまくいっていない。何か問題があるのではないか。しっかりと分析できると解決策が見つかると思われる。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・技科大の学生も東京に行ってしまう。 ・女性の雇用は本市も踏み込んで取り組んでいる。
福井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークにフルタイムの正規雇用とパート・アルバイトの二本立てで募集をしたところ、正規雇用のみすぐに決まった。正規雇用と同じ待遇にもかかわらず、パート・アルバイトでは応募がない。 ・農林水産業で外国人雇用は十分にあり得る。 ・今の20～30代が農業に興味を持ち、食糧生産を賄うひとが育っていくことが重要である。そのため、出来る限り正規雇用を増やしていきたいと考えている。 ・孫が5人おり、4人は幼稚園に通っている。幼稚園の園児の数が激減している。保育園もいっぱいには感じない。学童保育も含め、まずは子どもを預ける先のことを考えていかなければならない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前は正規雇用で働くことを嫌う傾向もあった。変わってきているのかもしれない。
白井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少は数十年前から分かっていたことである。抜本的な解決策を考える時代である。 ・いかに結婚して子どもを産み、育てるのか。2人、3人、4人産むことに対して、国が抜本的な解決策を講じない限り、最終的な結論、解決にはならない。フランスは国がしっかりとした施策をしている。 ・もうひとつの解決策は移民しかない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の地方創生は、国が地方に投げかけてきた取組みであるが、地

(発言者)	(要 旨)
	<p>方は応えていかなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、子どもへの対策に万全を尽くし、20年間耐えられれば、その地域は必ず成長できる。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋がどのようなまちなのかについて、ほかの地域から来た30～40代の人に聞くと、豊橋には良いところがないと答えることが多い。また、高校を卒業し、東京や大阪に行くと戻ってこない。
吉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の出産、子育ての現状として、ふたりで働かないと生活できない方は多くいる。豊橋でどこまで支援するのが重要となる。 ・本当に大切なことは、子育ての中に家族としての幸福感を感じてもらうことである。 ・ひとり親家庭が増えている。 ・放課後児童クラブは公立と民間とあるが、地域によって分かれている。両方設置するか、どちらかに統一してほしい。サービスの違いが校区によって出てきてしまうからである。どこまで公共で見るのかも問題である。また、学童保育では、指導員の仕事だけでは生活できない。しっかりとした雇用としていただきたい。 ・豊橋は中小企業が多いため、女性が長く働くことができ、育休後に戻ってこられる、あるいは同じ企業でなくても似た職種でどこかに再就職できるといったことになれば、豊橋での就職も考えてもらえるのではないか。 ・今の若い世代は、家族に子どもを預けるよりも、お金を払ってでもサービスを利用する。 ・子どもを預けて子どもが育つとは、親には思ってもらいたくない。今はおむつの取り方もわからない親がいる。預かるにしても、親をどう育てていくのかもあわせて考えていかなければいけない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・市長会の少子化対策委員会でも、0歳児を預かることに反対する女性の市長の意見がある。 ・いい社員を確保することが難しい時代になっている。能力のある人に働いてもらう仕掛けが必要である。
林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・海外でものをづくり、商売する方向になっている。今まではものづ

(発言者)	(要 旨)
	<p>くりをする人材がほしかったが、これからは、研究開発や技術開発、外国語が話せる人材がほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークライフバランスの話もあるが、今の若い世代は、仕事をそこそこにして、家庭の円満を希望している。 ・女性の雇用では、子どもがひとりやふたりならば、育児や介護の制度を活用してやっていけるが、3人以上になり10年も会社に来ないと、最終的には会社を辞めてしまう。 ・ぜひ祖父母といっしょに住んでもらい、放課後も面倒を見てもらう。逆に老後の介護は子どもたちに面倒を見てもらう。このようにうまく回れば、生活費も節約できる。出来ればこのような3世代同居の家庭には、税制優遇などを考えてもらいたい。子どもを産みやすい環境にもなると思われる。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・出生率の高い地域は3世代同居が多い。持続可能なコミュニティづくりはとても大切である。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・3世代同居が望ましいが、なかなか難しい。離婚率、学童保育など問題が多く、明るい話が出てこない。
佐原会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりがバラバラになっている。昔はひとりでは暮らせないがふたりなら暮らせるといった考えがあった。いいところを上手に拾いながら暮らしていくことができなくなってきた。
村松委員代理	<ul style="list-style-type: none"> ・広域経済連合会の中で、戦略を広域的に考えてほしいという意見がある。周辺地域との競争ではなく、企業が元気になれば安定した雇用が生まれ、出生につながる。大胆な規制緩和を行い、企業に頑張ってもらいたい。 ・中小企業では、ひとりが休みに入ると他の社員への負担が大きくなる問題がある。 ・敷地内同居で合理的に利用し合う方法もある。また、高齢者は自分の孫でなくても、子どもたちと一緒にいることで、認知症になりにくくなるのではないかと考えている。そのために行政は何ができるのか考えていてもよいのではないかと考えている。

- 佐原会長
- ・ 3世代同居など、人は社会の中で学びながら成長していく生きものである。現代の社会の中で再現できる仕組み、まちづくりをしていく必要がある。
 - ・ 豊橋だけ良くなればよい、という考え方はしない。広域で良くなり住みやすくなるのがよい。
- 原委員
- ・ 日本中の自治体が人口ビジョンと総合戦略を作っていくことになる。自治体としては、交付金をもらえるためメリットがある。
 - ・ 人口ビジョンは50年間の期間であるのに対し、総合戦略は5年間の計画である。ひとつ注文すると、人口ビジョンは小さく作ってほしくない。希望もなくなり、施策の自由度もなくなる。積極的で高い目標を人口ビジョンで掲げてもらいたい。
- 佐原会長
- ・ 豊橋は慎重なため堅実な目標を掲げる傾向がある。
- 事務局
- ・ 総合戦略を10月末までに仕上げる予定である。それまでに2回を目途に本協議会を開催する。次回は7月もしくは8月に開催する。